

三つの学習期

町田市小中一貫「食育」は、児童・生徒が食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることにより、生涯にわたって健やかな心身と豊かな人間性を育んでいくための基礎を培うことをねらいとします。

● 第1期 ● —基礎となる体験の充実期(小学1年生～4年生)—

小学校1年生から4年生までは、生活習慣の基礎を形成する時期です。そこで、体験的な活動を通して、健康的な食生活のあり方を考えたり、食べ物を栽培する人などに感謝する気持ちをもったり、地域で取れる農作物を知ったり、自分が身に付けるべきマナーなどを体得したりすることを学習内容の中心として構成します。それらについて、学校給食や家庭での食事場面に結び付けて繰り返して体得し、生活習慣を形成していくことが重要です。

● 第2期 ● —体験の充実と知識の習得期(小学5年生～中学1年生)—

小学5年生から中学1年生にかけては、体育科、理科、家庭科などの教科において、「生活習慣病」「人や動物の体」「食生活と栄養」などの健康に関する学習をします。また、社会科において、日本の歴史の中で食文化に関する学習をします。そうした学習機会を通じて、今までに繰り返し実践して体得してきたことに関する理論的な根拠を意図的に付加することが大切です。また、マナー、食文化、健康などについての確かな知識を身に付けることを通して、体験的な学習の更なる充実を期待することができます。

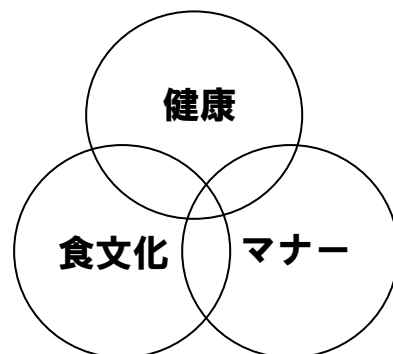
● 第3期 ● —学んだことの実践期(中学2年生～3年生)—

中学2年生から3年生は、今までに学んだことから、生徒一人一人が食の大切さを再認識し、自分の食生活を見直し健康を考えて、食の選択を行おうとする態度と実践力を育てることが重要です。異性を意識するあまり正しくないダイエットで健康を害したり、集団意識から一度身に付けたマナーが乱れたりする時期でもあります。自分の生活や生き方について、氾濫する情報に振り回されたり、他人に左右されたりすることなく、正しい知識をもとに判断し、進んで実行することができる子供を育てることが、義務教育最終段階としての食育が目指す方向です。

本カリキュラムは
以下の4つを軸に構成しています。

- ① 道徳の時間を通して、感謝する態度を身に付ける。
- ② 給食指導を通して、マナーを実践する。
- ③ 野菜等を育てて食べるなどの体験的活動を通して、食文化や健康に関する知識を体験的に理解する。
- ④ 理科、体育科や家庭科等の各教科及び総合的な学習の時間を通して、成長、衛生、栄養、安全、病気などの知識を身に付ける。

食育で指導する領域



食育

小中一貫食育カリキュラムのねらいと構成

小中一貫食育カリキュラムは、「健康」「マナー」「食文化」の3つの領域を通して、児童・生徒が食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付け、生涯にわたって健やかな心身と豊かな人間性を育てていくための基礎を培うことをねらいとして指導を行います。

9年間通じて各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動、学校給食などの学校の全教育活動において指導することを前提としてカリキュラムを構成しています。その他に、食育を指導するためには家庭との連携の強化が欠かせないことから、家庭と連携した取組もカリキュラムに導入しています。

小中一貫食育カリキュラムの目標

食に関する指導の目標として、文部科学省から①食事の重要性②心身の健康③食物を選択する力④感謝の心⑤社会性⑥食文化の6つの視点の目標が示されました。

それを受けて町田市においては、上記の6つの視点の目標を「健康」「マナー」「食文化」に分類し、各学年の実態に応じてより具体的な内容を示すために別紙のとおり領域別・学年別の目標を設定しました。これにより、9年間を見通して意図的・計画的な食育が行なわれることが期待されます。

小中一貫食育カリキュラムの年間指導計画について

食育は学校教育全体を通して行われるため、具体的な指導場面は各教科等に位置付けられることとなります。このため各教科等の単元等を抽出し、別紙のとおり年間指導計画を設定しました。

そして、その単元や題材が食育に関連することを明確にするために3領域を表す記号を付けました。このことによって、指導の意図が一層明確になるようにしました。

また、各教科等における指導内容と学校給食の食材や献立を結び付けることにより、より高い効果を期待することができます。そのため、小学校においては献立の配慮として月毎に旬の食材と食文化の伝承を明示し、学校給食との関連が一層図りやすくなるようにしました。

指導の実施に当たっては、個々の食に関する学習内容や題材・教材、学習活動などを相互に関連付けながら、教科横断的に指導することによって高い教育効果が期待できることから、各学校の実態に応じて部分的に実施時期の調整等を行い、関連付けを明確にすることも考慮して指導することが重要です。

小中一貫食育カリキュラムに含まれる主な内容

<健康>に関する内容

食は人間が生きて行く上での基本的な営みの一つであり、健康な生活を送るためには、健全な食生活は欠かせないものである。

子供に食と健康の関係について、具体的に考えさせていくことが大切である。給食・昼食指導や教科の学習を通して、栄養バランスのとれた適切な量の食事ができるよう、食生活において自己管理能力を身に付けさせることが重要である。

子供が食事の重要性を理解し、心身の健康に努め、食品を選択する能力を身に付けることができるように、将来にわたって自ら進んで実践できるよう指導する。

<マナー>に関する内容

食生活のマナーやルールについては、繰り返し実践することによって、子供に身に付けさせていく必要がある。道徳の時間を中心に、感謝の気持ちなどを育てる。給食・昼食指導を中心に、「いただきます」「ごちそうさま」をきちんと言うこと、箸の使い方などを身に付けさせる。

また、会話を楽しみながら気持ち良く食事をする事、残さず食べる事などを通じて、食生活のマナーを身に付け、環境や資源に配慮した食生活を実践する子供を育成していくよう指導する。

<食文化>に関する内容

家庭における食生活が変化し、日本の食文化が失われ始めていると指摘されている。日本の食生活の歴史や変化の様子、食料生産の仕組みや地産地消の意義、食と環境に関わる問題などを学ぶことを通じて、食文化の存在や日本型食生活の良さに気付き、それらを大切にしていこうとする気持ちを育てていくことが望まれる。

例えば、各教科における野菜などの栽培活動や日本の食料生産、年中行事、日本や世界の食文化の学習を通して、日本の食文化を正しく理解し、尊重しようとする子供を育てていくことが必要である。